

# アジアで がんを生き延びる

アジアの未来にとって  
がんはどんな意味をもっているのか？

あなたはここにどんな問いを立て、  
どのような解決策を考え抜くのか  
分野横断的なアクターが  
参画する枠組みの中で、  
アクチュアルな課題を自分事化し、  
構造化してみることに  
過去をみつめて未来を紡ぐ  
今こそ学際的の知が試されている

## 夏学期講義目程

科目番号 4990180 31M220-1314S 31D220-1314S

金曜日4限 14:55-16:40 医学部教育研究棟第1セミナー室  
(5/18 5/25 東洋文化研究所第一会議室)

担当教員：東京大学大学院 情報学環・学際情報学府  
「総合癌研究国際戦略推進」寄附講座 特任教授 赤座英之

- |  |   |
|--|---|
| 4/6 <b>Introduction</b> 持続可能な社会を目指して、アジアでがんを生き延びる<br>赤座 英之 (東京大学特任教授)  | 6/22 <b>Hospitals</b> 社会的資本としての病院一病院とは社会のなか<br>でどのような装置なのか？<br>国土 典宏 (国立国際医療研究センター理事長)                        |
| 4/13 <b>Patients groups</b> いのちの選択<br>一家族の癌治療のために全財産をつぎこめますか？<br>波平 恵美子 (お茶の水女子大名誉教授)                          | 7/6 <b>Access Accelerated</b> 医療のなかの医薬品の価値とはなにか？<br>平手 晴彦 (武田薬品工業株式会社コーポレートオフィサー)                             |
| 4/27 <b>Civil Society</b> 社会的インパクト投資がもたらすもの。<br>社会課題とステークホルダーをいかに繋げていくか？<br>小木曾 真里 (笹川平和財団ジェンダーイノベーション事業グループ長) | 7/13 <b>National Cancer Institute &amp; UICC members</b><br>公・共・私一がんを社会のなかで位置付ける意味とはなにか？<br>河原 ノリエ (東京大学特任講師) |
| 5/11 <b>Local/Regional Govts</b> 開発課題としてのがんから<br>地域のなにかみえるのか？<br>葦田 竜也 (JICA 人間開発部)                            | 7/20 学生発表 (敬称略)   |
| 5/18 <b>Cancer Registry</b> がん患者のデータからアジアのなにかみえるのか？<br>平尾 佳彦 (奈良県立医大名誉教授)                                      |   |
| 5/25 <b>Hospital Builders</b> 官民パートナーシップの潮流のなかで<br>アジアでがんの病院をつくるということ<br>布施 達朗 (セコム医療システム株式会社 取締役会長)           |   |
| 6/1 <b>Academia</b> 多死社会を生き延びるために、<br>どのような知が必要とされるのか？<br>辻 哲夫 (東京大学特任教授)                                      |   |
| 6/8 <b>Ministries of Health</b> ローカル・ナショナル・グローバル<br>行政は人々にとってどんな存在であるべきか？                                      |   |



### 連絡先

大学院生以外の聴講参加の場合  
東京大学大学院 情報学環・学際情報学府「総合癌研究国際戦略推進」寄附講座  
赤座研究室 TEL. 03-5452-5347  
担当 特任講師 河原ノリエ E-mail norie.kawahara@med.rcast.u-tokyo.ac.jp

詳細は [www.siccn.org](http://www.siccn.org)

# アジア × がん

「誰も置き去りにしない」世界の実現を目指し、国際社会が持続可能な開発目標(SDGs)を掲げている今、経済的困難を伴わずに医療を享受できる Universal Health Coverage を目指すプロジェクトが各地で立ち上がっています。

がんは文明病ともいわれ、皮肉にも感染症の克服とともに手に入れた高齢化によって、アジアのがんは、急増しています。医療格差も大きく、社会保障制度もまちまちなため、人々ががんどう向き合うかは、アジアの実像を映し出す鏡でもあります。こうした現状と課題を踏まえ、「C/Can 2025」という国際連携イニシアチブのフレームに沿って、ステークホルダーから様々な事例について学び、政策提案書をつくってみる講義です。

社会課題に対応したイノベーションの創出が問われる時代において、医療の専門的な分野の中でしか捉えられてこなかった、がんというアクチュアルな課題を、様々な領域から学び構造化してみる。分野横断の多様なアクターが参画する枠組みの中で、今日的課題を自分事化し、課題設定の在り方や解決策を考えぬくことは、自らが寄って立つ研究の足場の相対化にもつながるはずです。

## 講義は本郷キャンパス



## 参考図書



アジアでがんを生き延びる  
赤座 英之/河原 ノリエ 編  
東京大学出版会 2013年4月刊



Surviving Cancer in Asia:  
Cross-boundary Cancer Studies,  
The University of Tokyo, JJCO

がんというアジアの喫緊の共有課題を通して、高齢化、経済格差、死生観の変容、グローバリズムとナショナリズムのねじれ、などアジアの今日的な課題が浮かび上がってくる。本講義は、がんを医学はもとより、政治・経済・文化など様々な領域から捉えてみることを通して、世界の内実を読み解くことを学問的考察の端緒とする「Cross-boundary Cancer Studies」という学際連携プログラムに位置づけられている。

○冬学期に本授業と連動した授業を開講予定 ITASIA128 Surviving Cancer in Asia